

心理学研究法Ⅱ

科目コード●050509

担当教員●木村 進・白井秀明
中村 修・佐藤俊人・平川昌宏 ほか

2 単位

SR

2 年以上

福祉心理
必修

科目の内容

この科目は、心理学において使われる代表的な研究の方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に「心理学実験Ⅰ」、「同Ⅱ」、として科目が設定されており、さらに「心理学研究法Ⅰ」において、観察法、面接法、質的分析、質問紙法の4つについて学習します。

「心理学研究法Ⅱ」のスクーリング（2単位6コマ）では、検査法に関する理解と調査法のデータ分析（心理統計）に関する理解を図ることを目的とします。具体的には、1日目の最初の2コマで検査法全般に関する講義を行い、3コマめに心理統計の基礎に関する講義を行います。さらに、2日目には、 χ^2 検定やt検定、相関分析といった基本的な検定法・データ分析法についての講義を行います。その中で、統計的仮説検定の一連の流れや各検定法・分析法について、さらには、結果のまとめ方などについてより実践的な理解を目指すために、パソコンの統計処理ソフトをデータ例にもとづいて操作することも行っていただきます。

講義内容の概要は以下のとおりです。

- (1) 検査法について（担当 木村 進ほか）
 - ①心理検査法とは 検査法実施上の留意点
 - ②知能検査（ウエクスラー系・ビネー系）の概要と留意点
 - ③発達検査の概要と留意点
 - ④性格検査（Y-G性格検査など質問紙法、ロールシャッハテスト・TATなど投影（映）法、作業検査法）の概要と留意点
- (2) 心理統計とデータ分析について（担当 白井秀明ほか）
 - ①心理統計学の基礎についての講義（仮説演繹法、実験的研究と相関的研究、心理統計がなぜ必要か、サンプリングと剰余変数の統制、統計的仮説検定の流れなど）
 - ②統計処理（有意差検定、相関分析等）についての講義（解説）と演習

教科書

スクーリング受講申込者に資料送付

心理学研究法一般については『福祉心理学科スタディ・ガイド』も参考にしてください。

スクーリング受講条件

- (1) スクーリング申込締切日（8月分は7月21日／3月分は2月9日）までに、福祉心理学科専門必修科目・選択科目A群のなかから7科目分のレポート（4単位科目は4課題などその科目の全てのレポート）を提出していること（実験科目を含めて可、特講科目などS科目は含まれない）。
- (2) スクーリング事前学習をすませてくること。スクーリング受講申込者には、あらかじめ「心理統計学についての基礎知識」のプリントを送る予定にしています。プリントに書かれている内容は、スクーリング内で説明しますが、そのプリントの内容が頭に入っていると、理解が的確にでき、スムーズに講義や演習に取り組めると期待されます。できるだけきちんと読んで理解してくるよう努力してください。
- (3) レポート課題1単位目の課題1を行い、スクーリング初日開始時間に提出すること。
※ 課題の内容については、「レポート課題」「アドバイス」を参照してください。

レポート課題

1 単位め	<p>課題1は、スクーリング初日開始時間に提出して下さい。課題2は、スクーリング受講中、または受講後8月31日まで（3月受講者は3月14日まで）提出してください。</p> <p>課題1 『福祉心理学科スタディガイド』Ⅲ章を読み原則的な研究の流れについて要約レポートを作成しなさい。その際、「独立変数」「従属変数」「仮説」「構成概念」という4つの用語を必ず用いること。</p> <p>課題2 当日わたされたデータを講義内容をふまえて統計的手法を用いて分析し、その結果をわかりやすく整理した後、仮説が支持されたか否か検討しなさい。</p>
2 単位め	<p>スクーリング受講後に提出すること</p> <p>パーソナリティ検査における質問紙法・投影法・作業検査法の特徴について述べ、それぞれ代表的な検査の2～3について解説しなさい。</p>

（平成22年度以前履修登録者）2011年3月スクーリング受講者よりレポート課題が一部変更されました。必ず今回記載の課題で提出してください。

アドバイス

1単位め 課題1 解説

この課題は、スクーリング初日開始時間に提出してください（事前郵送は不可。必ず当日持参）。

要約レポートの作成要領は下記のとおりです。

- 1) A4判用紙（または原稿用紙）使用1,000字以上 ワープロ・パソコン可（手書きも可）。
- 2) 要約は、文中太字の語句を中心にまとめてください。また、「独立変数」「従属変数」「仮説」「構成概念」という4つの用語を必ず用いてください。書式は自由（箇条書きや図解の使用も自由）です。
- 3) この要約レポートはスクーリングの講義内容の理解を深めるための予習にあたるものですので、自分なりの理解でまとめてください。

2単位め 課題2 解説

この課題は、スクーリング受講中、または受講後8月31日まで（3月受講者は3月14日まで）に提出してください。提出用紙はスクーリング実施中に配布します。

レポート課題では、具体的な研究例のデータに対して、

- ・その研究の仮説を確認する
- ・仮説の検討に用いる分析手法を選択する
- ・SPSSを用いて実際に分析する
- ・SPSSの分析結果を読み取り、どうい結果が得られたかを文章と表でわかりやすくまとめる
- ・仮説が支持されたか否か結論をください

という作業を一人で行い、レポートにまとめていただきます。

多くの受講生にとっては、何のために統計処理をするのか、また、その結果は何を意味しているかということについては、ほとんど知識がなく戸惑うことが多いのではないかと予想されます。その点についても、スクーリング中に説明しますので、講義をきちんと聴くということと、ある程度予習をして「統計学」ということについても基礎的な学習をしていくことを期待しています（前述の「事前学習」参照）。

2単位め 解説

スクーリングを受講した人が、「2単位めのレポート課題」に取り組むことになります。

2単位めのレポートは、通常のレポート用紙に記入して、提出してください。

パーソナリティ検査（性格検査）は、検査の仕方によって「質問紙法」「投影法」「作業検査法」などに分類されます。この課題は、まず、それぞれの方法について、その考え方、

長所と短所などを解説することが求められています。そして、それぞれの方法を使った代表的な検査を2～3選んで、その検査の作成の経過、特徴、内容、実施方法、分析方法などについて説明するというのが、課題の後半部分です。

なお、この課題は、

- (1) 質問紙法・投影法・作業検査法の特徴について述べる部分
- (2) それぞれの代表的な検査の2～3について、検査の作成の経過、特徴、内容、実施方法、分析方法などを解説する部分

で構成する必要があります。

2単位めの課題では、レポート用紙のp.9～16まで使用し、4,000字程度まででまとめていただいても結構です（パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚まで）。もちろん2,000字程度でも結構です。

ただし、(2)で3種類×2～3の合計6～9個の検査についてくわしく述べていくと2,000字はおろか4,000字でもまとめきれない場合があります。

つきましては、4,000字でもまとめきれないと感じの方は、(2)の部分では、質問紙法・投影法・作業検査法のそれぞれ代表的な検査の1つについてまとめていただくか、または、全体で1つの検査についてまとめていただいても結構です。

(1)の「質問紙法・投影法・作業検査法の特徴について述べる部分」がこの課題の中心となりますので、(2)については簡略にまとめてください。

このレポート課題は、スクーリングの講義内容および適当な参考書を見つければ書ける内容になっています。参考書入手が困難な受講生は、スクーリングの際に図書館を利用して、レポートの材料を集めておいた方がいいでしょう。なお、参考文献を明記することを忘れないでください。

参考図書

●心理検査に関するもの

松原達哉編著『心理テスト法入門 [第4版]』日本文化科学社、2002年
大村政男・花沢成一・佐藤誠著『心理検査の理論と実際 (第4版)』駿河台出版社、1998年

塩見邦雄編著『心理検査ハンドブック』ナカニシヤ出版、1998年

岡堂哲雄編『心理検査学 (増補新版)』垣内出版、1993年

渡部洋編著『心理検査法入門』福村出版、1993年

村上宣寛著『心理テストはウソでした』講談社+α文庫、2008年

●心理統計に関するもの

吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大

人格心理学

科目コード●050511

担当教員●皆川州正



4 単位 | R or SR | 2 年以上

社会教育
選択B

福祉心理
選択A

【 科目の内容 】

ある状況で人はその人なりの思考や行動をとります。しかも、別なときの同じような状況でもその人はその思考や行動をとりがちです。このように一貫性と持続性をもったその人特有の思考や行動の特徴的傾向の体系を「人格」といっています。「人格」と「性格」はほぼ同じ意味で用いられますが、区別するときは、「人格」は態度、興味、価値観などを含む心の全体的特徴を指し、「性格」は主として感情や意志の側面の特徴を指します。

人格心理学では、①個人の全体性と独自性の記述と理解、②個人差の理解と予測、③自我・自己の理解、④人格の発達・形成過程の理解、⑤自己成長・人格変化の過程の解明と援助、⑥人格の障害・病理（葛藤と欲求不満、防衛機制を含む）、⑦人格と健康の関連、⑧人格と文化・性差の関連、⑨人格の理解の方法などについて学びます。このうち、⑥⑧については、補足資料を参照ください。

なお、産業カウンセラーの受験資格取得をめざす人は、『産業カウンセリング』（産業カウンセラー養成講座テキスト）も参照ください。

【 教科書 】

岡田斉編『心理学理論と心理的支援』（社会福祉士シリーズ2）（第3章）弘文堂、2008年さらに、以下の補足資料（A3判・1枚）を配付します。

- ・皆川州正 2004 問題行動の一般的経過：どのように見通しを持つのか 今城周造（編）福祉の時代の心理学 ぎょうせい pp.198～199
- ・今城周造 2004 情動・欲求の否定的側面：悩んだり、迷ったり 今城周造（編）福祉の時代の心理学 ぎょうせい pp.63～64（皆川により補足）
- ・皆川州正 人格と文化・性差の関連

※産業カウンセラー受験資格取得をめざす人は、『産業カウンセリング』（産業カウンセラー養成講座テキスト）も教科書に準じて活用ください。

（平成20年度以前履修登録者）2009年4月より教科書のタイトルが変わりました。内容は、以前の教科書『臨床に必要な心理学』と同じです。

路書房、1998年

岩淵千明編著『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版、1997年

大村平著『改訂版 統計のはなし』日科技連、2002年

松田文子ほか著『わかって楽しい心理統計法入門』北大路書房、2007年

丸山欣哉ほか著『学生のための心理統計法要点』おうふう、2009年

村井潤一郎・柏木恵子著『ウォームアップ心理統計』東京大学出版会、2008年

山内光哉著『心理・教育のための統計法<第2版>』サイエンス社、1998年

山田剛史・村井潤一郎著『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房、2004年

南風原朝和著『心理統計学の基礎』有斐閣、2002年

南風原朝和ほか著『心理統計学ワークブック』有斐閣、2009年

神宮英夫著『はじめての心理統計』川島書店、1998年

田中敏著『実践心理データ解析』新曜社、1996年

森 敏昭・吉田寿夫編著『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』北大路書房、1990年

【 スクーリング受講上の注意 】

3月のスクーリングを受講して3月末に卒業することは原則としてできません。万一、希望する場合は1月10日ごろまでに書面で希望届の提出が必要で、1・2単位めレポートも3月7日必着での提出が必要です。